

シミュレーション教育は、実際の臨床の場面を再現した環境下で、学習者が人やものに関わりながら経験し、その経験を振り返ることを通して、知識や技術、態度を統合する学習方法の一つです。このシミュレーションをより効果的に管理、記録、評価できるようにするシステムがSimCaptureです。

助産コースでは今年度からSimCaptureの活用を試みています。学生は、分娩介助技術を習得するために、まずは学内で演習を行います。3人1組となり、助産師役、産婦役、評価者役をローテーションしながら、互いに意見を出し合い、繰り返し練習します。

SimCaptureではその様子を録画しクラウド上に保管することで、学生が自分のパソコンやスマホから、いつでも、どこからでも、何度でも動画を視聴することができます。自身の分娩介助技術や産婦さんへの声かけの実際を事後に視聴することで、実施中には気づかなかった具体的な課題を見いだすことにつながります。助産看護実習前に行った分娩介助技術試験時にはSimCaptureを使って、学生の自己評価と教員評価の共有も行っています。試験の場面を録画した動画を学生と教員と一緒に見ながら、技術や言動を確認し、例えば「この場面で産婦さんと胎児の安全を保つには、どうしたらよいだろう」ということを問いかけ、その時考えたこと、実施したことに基づいて、新たな学びが得られるように促していきます。

学生からも、「動画を繰り返し見ることで、自分の課題が明らかになった」「動画を見ながらの面談が役立った」などの感想が聞かれています。今後もデジタルテクノロジーを効果的に取り入れながら、教育の質の向上に努めていきたいと考えています。



fure-fure



4学年交流会

■ 学生の活動

【新入生のつどい】

代表：2回生 永橋正基さん

今回、新型コロナウイルス感染症による行動制限が緩和され、1回生同士や先生方との親睦を深める「新入生のつどい」を数年ぶりに開催することができました。1回生の皆さんの大学生活をお手伝いするため、1・2回生、そして先生方がチームとなり体育館にてソフトバレーボールをしました。各チームが1位を目指す中で、チームメンバーが仲良くなり、喋り声や笑い声が増え、体育館全体が活気に満ちた雰囲気となりました。また、学生同士だけでなく先生方との距離が縮まる様子を、私も間近に見ることができ、今回の計画や実行に携われたことに喜びを感じました。これからも1回生の皆さんの大学生活がより充実したものになるよう願っています。



【フットサルサークル】

代表：3回生 溝渕太志さん

高知県立大学フットサルサークルです。普段は池体育館で木曜と金曜の18～20時に男女混合で練習しています。自分事ではありますが今年からキャプテンを務めさせていただいています。慣れないことではありますが、精一杯やらせてもらっています。フットサルというと、サッカーと何が違うの？と言われてたりするのですが、実際にやってみるとサッカーとはまた違った楽しみ方ができるのも醍醐味です。去年はインカレにも出場させていただき、惜しくもPKで敗れてしまいましたがとてもいい経験になりました。今年も新入生が来てくれたので、これからも楽しく活動を続けていきたいです。



トピックス

* 新任教員のご挨拶

* 各学年の大学生活

* 看護実践能力の育成

— SimCaptureの活用 —

* 学生の活動

新入生のつどい

フットサルサークル

【ニュースレターの名前 “fure-fure” の意味】

学生さんを応援する気持ちを込めて、学生さんが、誰かを応援できるようになる願いを込めて、この名前を付けました。

ご意見、ご感想など、お寄せ下さい。 fure-fure-kango@cc.u-kochi.ac.jp



高知県立大学 看護学部
Faculty of Nursing University of Kochi



■ 新任教員のご挨拶

医療情報学・統計学 准教授 小林秀行

4月より医療情報学領域に着任いたしました。個人の主体性を尊重し日常生活の機会を拡げるという考え方に看護の強みがあると考え、その定式化と理論構築をテーマに研究に取り組んでいます。

時代の変遷を経て、看護者の視点は“Do for a patient”から“Be with the patient”へと変わってきました。定冠詞 *the* には、目の前にいる療養者を一人の個人として捉え、主体性とその人らしさを汲み取るという看護の意義と使命が込められており、おそらくAIには将来も代替されることのない高い専門性があります。

わが国の看護学の発祥である本学で学ぶ幸運に恵まれた皆さんには、在学中に看護実践の教育を受けるだけでなく、先人が構築してきた看護学の息吹きを身体と知性とで感じ、看護のあるべき姿や社会的意義について熟考する時間として学生時代を有意義に過ごされるものと期待しています。



公衆衛生学・疫学 准教授 立木隆広



高知県立大学看護学部みなさま、はじめまして立木隆広と申します。1回生の皆さんと一緒にこの春に参りました。2回生以上の皆さんは先輩ですね。まだまだ分からないことが沢山ありますので色々教えてください。

さて、大学生活で大切なことは何でしょう。もちろん、学生の本分は学業といわれますので、志した看護学の基礎を学び実践できる力をつけることは大切です。そして、せっかく大学で学ぶのであれば、看護学を科学する力つまり看護を研究し発展させる力を身に付けることに挑戦するのも大切です。と、それなりに人生の先輩らしいことを伝え、ここからが本題です。

大学生活で大切なことは、かけがえのない友と仲間に出会い、決して他のものに代えることのできない宝物のような時間を過ごすことです。大学は未来を創るところです。みなさんとみなさんの周りの人の未来を創るために、よく学び、よく遊び、素敵な時間を過ごせることを願っています。

在宅看護学 准教授 中井寿雄

私は高知県出身です。10年前より石川県の大学でお世話になっていたのですが、この度、高知に戻る機会をいただきました。本学に着任して3ヶ月が過ぎようとしていますが、ふと去年の今頃を思い出すと、雨は多いけどこれほどまでにジメジメしてなかったし、6月下旬の朝夕はまだまだ寒くTシャツ一枚ではいられなかったような…。日本は小さな国ですが、日本海側と太平洋側で気候は随分ちがうなあとあらためて感じています。そういえば北陸では、日本海側のことを裏日本、太平洋側を表日本と呼称していた人がいて驚いたことや、おでんにカニが入っていること、スタッドレスタイヤでもアイスバーンの道路では止まらないこと等々、色々と思い出してきました。北陸方面から進学している学生さん、是非、地元の話や高知に来て驚いたことを共有しましょう。



急性期看護学 准教授 村川由加理



2023年4月に急性期看護学の准教授として本学に着任いたしました。外科、ICU、救急領域での臨床経験を経て、急性期看護学、クリティカルケア看護学の教育・研究に携わっています。

急性期看護の対象は、急性疾患や事故などによって、健康状態が急激に変化し、時に生命の危機に瀕する状態にある方とその家族です。対象となった方の発達段階、社会背景などを理解し、早期回復、苦痛緩和、社会復帰への看護を実践します。近年は、急性期医療から在宅医療へのシームレスな移行、プレホスピタルケア、ポストホスピタルケアの充実、急性期医療分野でのICTの拡大も課題になっています。

時代の変化に応じて求められる医療ニーズは変化し続けます。しかし、どのような時代においても、最大限の健康を取り戻しその人らしい質の高い生活をサポートするという看護の役割は不変です。時代に即した最良の急性期看護ができるようにともに挑戦していきましょう。

■ 各学年の大学生生活

1 回生



新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴う生活様式の変化のなかで、1回生も少しずつ大学での生活に慣れてきた様子です。高校までの学び方との違いや正解のない問いに向き合うことにとまどいながらも、それぞれが講義や課題に真摯に取り組んでいます。また、サークルや立志社中などの課外活動への参加を通して他学部の学生や地域の方々とも出会い、さまざまな経験を積み重ねています。

写真は、入学後間もなく行われた交流会の様子です。スポーツを通して、看護学部1回生同士の交流を深め、午後からは4学年交流会に参加し、他学年の学生や教員と交流を深めました。

2 回生

2回生は、4月、新学期早々に「新入生のつどい」、4学年間の交流を促進する「4学年交流会」の企画・運営を行いました。コロナ禍で様々な活動が制約された環境で過ごしてきた2回生にとっては、多くの学生が楽しめるようにと知恵を出しあい、協力しあった初めての企画でした。当日は、参加者、企画委員全員が楽しみながら交流を深めていました。

講義や演習では、より専門的で難易度があがり、注射や吸引など技術練習も試行錯誤しながら取り組んでいます。

8月に予定されている病院での看護基盤実習をイメージしながら、看護職としての姿勢や専門知識を身に付けようと頑張っています。



3 回生



3回生は、現在、2回生までに修得した知識や技術を活かしながら、看護の対象者に合わせた看護展開方法について、より専門的で具体的な学習に取り組んでいます。演習やグループディスカッションでは、自分の思考をまとめる力、相手に伝える力、聴く力など、看護に必要な力の獲得を目指しています。8月には病院でのインターンシップも受け入れていただけることになり、新型コロナウイルス感染症の影響も少なく、実習準備を整えています。

10月からは、病院や地域で行われる6領域の臨地実習が始まります。3回生にとって初めて患者さんを受け持たせていただく実習です。

また3回生は、将来目指す職種や自分に合った看護の場など、自分を見つめながら進路や就職について考えています。9月には、保健医療系就職ガイダンスを開催します。このガイダンスでは、医療機関に所属する看護管理者の講演会、卒業生を迎えた懇談会などを行います。学校だけではなく、たくさんの実習施設、地域の方々の協力を得て、看護観を磨き、看護職としての土台を形成しています。実習への不安や緊張もありますが、患者さんに関わり、看護を創造する期待も持ちながら、大学生活を送っています。

4 回生

最終学年の4回生は、実習、看護研究、国家試験対策そして就職活動と多重課題をこなしながらもしっかりと前に進んでいます。まず、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い（まだまだ油断はできませんが）やっと制限の少ない環境に変わってきた実習が始まります。5月末から養護実習、6月に入り助産看護実習と先行して始まっている一部実習に続き、6月末からは必修科目の総合看護実習と家族看護実習、そして7月中旬からは看護管理実習が実施されます。久しぶりに臨地で学ぶ場に備えて、学生も教員も事前の準備に余念がありません。そんな忙しい中でも、看護研究への取り組みも忘れていません。指導教員の助言を受けつつ、それぞれのテーマに沿ってグループ単位で看護の探求を行っています。まだまだ先のことだと思っていた国家試験（来年2月予定）の模試もすでに2回目です。自分の得意科目、不得意科目を明確にし、コツコツと努力する姿は頼もしく感じます。そして、一番エネルギーを注いでいるのは、就職活動かもしれません。一人ひとりのめざす姿を明確にし、そこに向かって、様々な制限にも負けずにこれまで培った力を発揮していけるように日々取り組んでいます。

